

平成25年度第1回 博物館協議会 抄録

(異動職員の紹介)

(辞令交付)

(新規委員あいさつ)

(市民憲章唱和)

1 あいさつ

(事務局)

2 会長・副会長の選出

3 協議事項

(1) 平成24年度博物館事業実績について

(資料説明：事務局)

(会長の要請で各展示の担当から補足説明)

(委員)

企画展の観覧者数の内訳を教えてください。お金を払って入る人がどれくらいいるのですか。

(委員)

内訳はありますか。

(事務局)

データはあります。

(事務局)

今回は間に合わなかったもので、次回から用意します。

(委員)

お金を払って入ってくれる人数を目安に私たちもがんばれる。

(委員)

学校としてノルマがあるのか。

(委員)

小学6年生と中学2年生は毎年指定で、必ず来ることになっている。

観覧者数にカウントされます。

(委員)

過去のデータの出し方もこのようだったのか。

(事務局)

ごく初期の頃に細かいデータをお出ししたかもしれません。

(委員)

小中学生を分けて統計をとるのか、小中学生の人数は決まっているのだから、数にいれないのか。

(委員)

内訳は分かるようにした方がよい。

(委員)

ご検討いただけますでしょうか。

(事務局)

わかりました。

(委員)

震災関係が2本同じ年に重なったことは、今後検討が必要。

市制 10 周年単位の節目の展示がくることは分かっていることなので、計画的にやっていると、（市制 60 周年のときのように）宣伝に手間取っているのなら、2、3 年前から取り入れていくべき。市全体で盛り上げているし、学校でも PR するので、一番大事な年間計画を 60 周年ではしていなかった。今後は大事に扱ってほしい。

（委員）

企画展とか特別展というのは有料と無料もありましたよね。博物館としてはかなりの収入を得ないと成り立たないのでしょうか。

（事務局）

ミュージアム・スポットはすべて無料です。400 円に相当するのはからくり人形の展覧会でした。そのほかの企画展が 300 円ですが、「震災からよみがえった文化財」展は展示の趣旨から考えてお金をいただきませんでした。収支が取れるのという心配をしていただいたのだと思いますが、その点から申しますと大赤字です。具体的に計算はしておりませんが、もっと高い入場料を設定して、何倍も人が入らないと黒字にはなりません。

（委員）

2 番目の議題に入りたいと思います。25 年度の事業計画についてです。

（資料説明：事務局）

（各展示を担当者が説明）

（委員）

特別展「南吉が安城にいた頃」について、何を展示する予定なのか教えてほしい。またレイアウト図があれば見せてほしい。要綱案の文章だけでの検証は難しい。

（事務局）

まだレイアウト図は内部でも出てきていません。展示資料のリストはあります。

（委員）

南吉展のオープニングセレモニーについて桜町小学校の子が女学校の校歌を歌うのですか。

今の安城高校の生徒のほうが適切なのでは。

(事務局)

同年代としては今の中学生にあたるので、南中をお願いしようと思ったのだが、合唱部がないため難しいということでした。そのため、女学校のあった桜町小学校にお願いしました。桜町小学校は南吉学習も行っているなので、その成果も発表してもらいます。

(委員)

常設展の改修を申請するような書類を作るのですか。

(事務局)

改修を認めてもらえるようなたたき台を作り、これが実施計画で採択されると、予算が計上される。さらにこれを実施計画に出し、認められると予算措置をとるという二段階の手続きがあり、その最初の段階の資料にあたります。

(委員)

去年常設展の一部を改修したということですが、それとは違うのですか。部分改修では追いつかないので全面的に改修したいということですか。

(委員)

そういうことです。今までも実施計画にあげているのですが、認めてもらえなかったので、そのための第一歩ということですか。

(事務局)

昨年度の部分改修もその一環とみるのか、それとも大幅に全館改修するのか、ということも含めて、予算をつけてもらうためのたたき台を作りたいと思っています。

(委員)

全面改装したいという一番の理由は何ですか。

(事務局)

開館以来、昨年までは大きく変わってこなかったのですが、最近までの調査成果を踏まえて、最

新の調査成果を反映したものに変わりたい。それについても、今あるケースをすべて取り払ってゼロからやるのがよいのか、あるいは展示スペースを増やしていき、中を入れ替えられるようにすることがよいのかということも含めて、これからの検討課題です。

(委員)

開館以来何年も経っていて、それ以後に新たに分かったことも盛り込みたいということですか。

(事務局)

そうです。それを実現するためには、今ある展示ケースだけでは足りません。開館当初は、展示物が少なかったので、パネルを多くしたという経緯があります。今は、展示をしたいのにケースが足りないという状況です。

(委員)

特別展の関連行事に南吉体操というものがありますが、ここからそういったものを広めていきたいということですか。

(事務局)

広めていきたいというよりは、ここに多くの人に集まってもらって、南吉展を見てもらいたいということです。子ども課に協力してもらって、全保育園、幼稚園に声をかけてもらって、一日4園の子たちに南吉体操と南吉音頭をやってもらいます。

(委員)

音頭もあるのですか。

(事務局)

東栄幼稚園が開発されました。

こどもがここに来れば、家族の方にも来ていただける。図書館にも本の読み聞かせをお願いして、終わったらそちらも楽しめるようにする予定です。南吉展を多くの人に知ってもらうためのイベントです。

(委員)

おもしろい企画だと思います。

それから、安祥文化のさとまつりで、安祥中学の吹奏楽部が石舞台で演奏するということがありますが、これは毎年やっていたらいいのですか。

(事務局)

安祥中学校にやってもらうことが多いです。去年は都合がつかないということでした。

(事務局)

昨年度まで引き受けてもらっていましたが、この時期総合運動場の方のイベントとも重なるものですから、今年はテスト週間とも重なるので、今年も不参加になると思います。

(委員)

雨の場合はどうされているのですか。鉄砲や武者行列など含めて。

(事務局)

今までは天候に恵まれ、中止になるような雨が降ったことはありません。雨が降った場合は、私が担当していたときは、エントランスホールで鉄砲を撃つところまでの動作や、中がどうなっているのか手鉄砲の分解整備などやってもらうつもりでした。

(委員)

博物館の中に入って行く人も多いわけですか。

(事務局)

実際なかなか難しい状況です。エントランスホールで歴博小劇場をやっても、それだけ見て帰られる方のほうがむしろ多いくらいです。こちらは、それをきっかけに展示を見てもらえればと思って開催しているのですが、そのイベントだけを目的に来て、それが終われば帰るのが現状です。

(委員)

歴史のひろば展は去年から始まったのですか。

(事務局)

今年で8回目です。このためにさとまつりを始めました。

(委員)

去年は見ていて、発表もありましたので、これを目当てにした中学生や家族の方がたくさん入ってくるなという実感がありました。

(委員)

石舞台について疑問に思ったのですが、さとまつりのとき以外にも活用しているのですか。

(事務局)

さとまつり以外では使っていません。外にあるものですから、天候を考えると非常に使いにくいというのが本音です。外なので、音の大きなものでないとできません。やはりエントランスホールでの行事が多くなってしまいます。

(委員)

ここができるときに、石舞台を利用するという想定はなかったのですか。

(事務局)

博物館の構想と別に、公園側の構想で作られたものなので、詳しくは分かりませんが、利用を想定して作られたのだと思いますが、現段階では活用しきれていません。今後活用できるイベントがあれば使っていきたいと思います。

(委員)

今後活かしてもらえればと思います。

(委員)

今年度は展示が5本ですが、前年度までは6本でした。どうして減らしたのかと言うと、職員の仕事量が多いので、その負担を減らすためです。ですが、負担が減ったはずなのに、前年度と同じ程度の内容の展示計画しか出てきていません。減らした分の労力はどこへ行ってしまったのか。もちろんほかにも仕事がたくさんあることは分かっているが、その分の効果がここに少しも現れていない。その表れが展示の配置図がないということですね。計画を早め早めに行ってもらいたい。なぜ、展示を減らしたのにこの有様なのかよく考えてもらいたい。

(事務局)

この件に関しては昨年度と同じ時期の協議会で議題にあがり、いろいろご意見をいただきましたが、現状の人員と仕事量で6本の展示をこなすことが難しいということをお話させていただきました。それとは別に、現在収蔵資料の整理が大変滞っておりまして、それは学芸員が行うべきだと思っています。この二つ理由から展示の数を減らしてもらいました。しかしながら、会長のおっしゃるとおり、もう少し充実した計画が練られるようにすべきだと思います。これからは、もう少し具体的な計画を提示できるように努力していきたいと思います。

(委員)

減った分の労力のうちせめて半分はこちらにつき込んでほしいですね。

(委員)

上半期の催しもの案内ができたのが3月31日ですよね。3月の下旬、せめて中旬にはないと、4月の最初に良い展示があっても情報が届くのが遅くて、出遅れてしまう。博物館ニュースも同様。もっと早めてほしいです。

見学学習の案内を博物館側は出したと言っているのに、学校側には届いていないことがありました。しかも年間計画が全然載っていなかった。1月の博物館協議会では決まっていたのに。これがあれば、展示内容をみて見学の時期を下半期にも設定できるのに、いつも上半期のものしか来ないから、上半期に集中してしまう。ですから、下半期のものも送ってほしいです。

それから、名古屋大学の大参義一先生の収蔵資料についても、未だに公に公開されていない。その整理や公開も計画的にお願いしたい。

(事務局)

次回下半期の催しもの案内は早く出したいと思います。

大参義一先生の資料は、文献資料は大方整理が済みましたので、遺物資料の整理を今後考えていく予定です。

(委員)

見学学習のしおりは、以前は学校で作っていたが、今では博物館に用意してもらっています。もう少し学校側が積極的に取り組まなければいけないと思っています。

博物館から送られてきた図録等も活用できていません。私の立場で、できることはやってい

こうと思っているが、子供たちを通して保護者にも啓発していかなければいけないと思いました。

(委員)

見学の前に事前学習はしているのですか。

(委員)

やっております。

本来なら教員が事前にここに来て予習をするのが望ましいのですが。

(委員)

もっと教員も勉強しなければいけないと私も思っています。

(委員)

まだまだ議論はつきませんが、時間もオーバーしていますので、ここで終わりたいと思います。

(事務局)

展示計画に関しまして、現在の半期ごとというサイクルを変えないとなかなか改善されないのかもしれませんが、委員さんのご指摘のとおり、努力していきたいと思えます。南吉展を含め南吉に関するイベントは博物館のみではなく、ほかの部局と協力してとにかく多くの人に関心を持ってもらえるように考えています。南吉展に関しては家族で楽しめるような展示にしてもらえたらと思えます。

また、市民ギャラリーでは、南吉の童話の原画展も行います。多くの人に来てもらって、南吉のことを知ってもらいたいと思えます。教育委員会、市をあげてこの企画を推し進めていますので、よろしくお願ひします。

(議事終了)

あいさつ

(事務局)